アルス国際靴学校研修体験記

（平成19年９月25日～12月21日）

クラウン製靴 株式会社　**木下　藤也**
株式会社 石関製靴　　**石関　栄祐**

今回､東京都皮革産業技術研究員として、約３か月間、イタリア・ミラノにあるアルス国際製靴学校において靴に関する技術と知識を学び、また各国の人々と交流することができました。このような貴重な経験をさせていただき感謝しております。

【研修内容】

アルス国際製靴学校では、主に鞄と靴のコースがあり、それぞれ紙型とデザインを教えています。今回、私たちが研修で参加したコースではイタリア、米国、ベルギー、ノルウェー、南アフリカ、ドイツ、ロシア、韓国、日本からの合計16名の生徒で授業が行われました。

紙型の授業は、まず初めに靴型から元型の取り方を学び、その後に外羽根、内羽根、パンプス、サンダル、ローファー、モカシン、スニーカー、アンクルブーツ、ロングブーツ、袋モカシン、プラット、サボ等の基本の作り方から応用までを学びました。またそれらのデザインの中で紳士靴だけでなく、婦人靴、子供靴まで幅広く学ぶことができました。

授業風景

授業の流れは、先生のデモンストレーションを見て、その後各自が紙型を作成します。そして紙アッパーを作り、靴型にあわせデザインのバランスを確認します。先生にも確認してもらい不具合があれば指摘を受けます。各デザインごとに応用デザインの紙型を繰り返し行うことで、自然と作り方を覚えることができました。

この授業に加え、MONDAYTESTとENVELOPEという課題があります。MONDAYTESTは毎週、月曜日にデザイン画を渡され、各自が紙型と紙アッパーを作成し封筒にいれ提出します。更にENVELOPEでは不定期に行われ、裏型から裁断型まで作成し提出します。このように３か月間、作業を繰り返し定期的に行われる課題で確認することで徹底的に紙型を学ぶことができました。

ルナティ先生と木下藤也

アルス国際製靴学校では「ルナティシステム」と呼ばれる独自の紙型作成方法があり、デザインの種類や紳士、婦人、子供によって数値が決められています。それに基づくことで、紙型が初心者の生徒でも比較的簡単に早く作成することができます。し

かし、靴型からデザインを描くのではなく、決められた数値に基づいて元型に展開していくため、多くの経験が必要であると共に、素材や靴型によって研究が必要だと思いました。

また、紙型の授業の他にデザインの描き方も学びます。これも紙型と同様で、決められた方法に基づくことでデザインのバランスをとることができ、スムーズに靴のデザインを描くことができます。そして、授業開始から１か月が過ぎたころから、製法、皮革、型入れ、靴型プロポーション、インターナショナルサイズシステム等の講義がありました。この他、自由課題とコンテストがあり、自由課題は各自、靴型から選び好きなデザインで紙型の作成から革の裁断まで行い、外注した製甲を先生が釣り込むというものでした。コンテストは自由課題と同様に、デザインを考えつり込みまで行い、決められた本底を張り合わせます。そして、審査により１位から３位までが決まるのですが、今回のコンテストにおいて石関研修生が２位入賞することができました。このように３か月間であらゆる紙型の作成技術から、靴に関する幅広い知識を習得することができました。

リニアペレ展

課外授業ではリニアペレ展、タンナーと婦人靴メーカーの見学に行きました。

リニアペレ展は、毎年２回ボローニャで３日間行われ、皮革から副資材等、靴に関するすべてのものが展示され、その規模の大きさは想像以上でした。世界各国の業者と多くの来場者で賑わい、改めてイタリアが靴の本場であることを実感しました。

タンナー（STEFANIA）の見学では、授業で習ったことを先生が説明しながら工場内を巡り、革の仕上げ方法、革の色落ちや強度を測るテストルーム、革にプリントする技術など、先進国イタリアの革の技術を実地に見聞しました。

タンナー見学（STEFANIA）

また、工場見学ではミラノ近郊にある「ROVEDA」という婦人靴メーカーに行きました。工場内は少量から大量生産まで対応できる最先端の設備を備えており、無駄のない生産ラインと規模の大きさに圧倒されました。

講義終了の２週間前から「ルナティシステム」を創設したルナティ氏が来校し、紙型の作成からデザイン画の描き方を習います。卒業試験では、筆記試験、実技試験、面接がありました。筆記試験は事前に講義で学んできたことの課題がだされ、レポートにまとめ、最終日に提出します。

実技試験は、デザイン画から紙型、紙アッパーの計５型を授業中に作成し、事前に提出します。そして、最終日にルナティ氏と２人の先生との面接が行われ、これまでの提出課題の確認と講義で学んだ内容の質問を２問程出題されるものでした。

ルナティ先生と石関栄祐

【イタリア・ミラノでの生活】

私たちが生活していたレジデンスは、ミラノの中心部から西側に少し離れた場所で、フィエラミラノ（展示会場）のすぐ近くにあります。ミラノでの交通機関はバスやトラム（路面電車)、地下鉄、鉄道があり便利ではありますが、最初はチケットの買い方や種類など慣れるのに少し時間がかかりました。ミラノ中心部へ行くときはよくトラムを利用しました。

アルス国際製靴学校とレジデンスは同じ建物内にあり、アルスは学校だけでなく靴や鞄に関する雑誌の編集社でもあるため、オフィスや展示室などもありました。レジデンスには私たち以外に、クラスの約半分の生徒が生活していました。私たちの部屋は２人部屋で想像していたよりも広く、バス、トイレ、キッチンが完備されており、週２回のタオル交換と週１回の掃除とベッドメーキングがありました。

食事に関しては、食器や調理器具がすべて揃っているため、ほぼ毎日自炊をしました。歩いていける範囲でスーパーマーケットがたくさんあり、食材から日用品まで買い揃えることができます。また、徒歩15分位のところの中華街には値段も手頃な中華レストランがあり、ミラノ中心部には日本食レストランもあり、誘い合ってクラスメートと一緒に食事に行ったり、バースデーパーティーに参加したり、日常生活において特に問題もなく充実した毎日をおくることができました。

ミラノには有名な教会や美術館、そして昔からの町並みがありますが、イタリアの他の町でも､その土地によって特色があり、多くの歴史的建造物や自然など、普段、日本では味わうことのできない、歴史や文化を肌で感じることができました。なぜ、イタリアがファッション界をリードし独創的なデザインを生み出すかは、このような環境の中で生活してきたからかもしれません。

【研修を終えて】

今回、この研修で、様々なアルス国際製靴学校独自の技術や知識を習得し、イタリア靴産業の現状を知ると共に、生産ラインにおける最新設備を確認することができました。

主にアルス国際製靴学校で学んだことは、ルナティシステムによるスプリングとトウカットを用いた型紙の作成方法とデザイン画の作成方法です。

今後、型紙の作成方法を活用していくためには、靴型や素材からルナティシステムによるスプリング、トウカットの数値を基に調整をしていく必要があると思います。講義で使用される靴型は一般的なものであるため、ここ最近にみられるロングノーズやクセのきつい靴型、またあらゆる素材に関しては今後の研究課題です。

また、デザイン画の作成方法についてですが、現在の仕事では、あまりデザイン画を書くことはないですが、ラインの描き方やバランスのとりかたについては、型紙を作成する上でも必要であるため、これからの仕事に生かしていきたいです。

この３か月間、靴の本場であるイタリアで生活し集中して勉強ができたこと､また、他の国々の靴関係者と知り合い、情報交換ができたことは、これからの私たちの人生において、とても有意義で貴重な経験となりました。更に勉強を重ね、これからの日本の靴産業に貢献していきたいと思います。

この研修に参加するために尽力いただいた方々に心から御礼を申し上げます。